

2007.11.1~2

全国各級女性議員政策研究会

女性議員百人が集結

永田町の自民党本部で党女性局主催の全国各級女性議員政策研究会が11月1日、2日と2日間にわたって開催され、私も参加いたしました。全国から約100人の女性議員が参加し、大臣や国会議員らが講師となり、幅広い政治分野への理解を深めるための研修が行われました。外交分野では麻生太郎元外務大臣が、「けんかが弱く、お金はあるいいめられっ子」日本がもつべき強



研究会を主催した有村治子党女性局長と

みとはなにかについて、日本の社会貢献、またアニメ・音楽・ファッションなどが海外で高く評価されてきている例をあげて、持論を述べられました。また防衛分野では石破茂防衛大臣が、「新テロ対策特別措置法案」について講演。この日限切れ前日であつたテロ特措法によるインド洋上の給油活動について、「アメリカの戦争への支援ではなく、テロ活動を断つため多くの国が参加している活動。日本による



地方の活力について語る谷垣禎一政務調査会長

給油は世界から高く評価、感謝されている」と理解を求めました。その他8テーマにわたる講演が行われた密度の高い研修。国政は手の届かないものと感じがちですが、今まさに進行中の問題について、現場の空氣にふれ声を聞くことができ刺激を受けるとともに、地方議員も広い視野にたつた問題解決力をもたなければと再認識することのできた二日間でした。



菅義偉前総務大臣はねじれ国会の苦勞を語った

① 神戸の話題から

どう変わるの？ 敬老福祉パス

最近高齢者の皆様から市バス、地下鉄の敬老パスが無くなるのではとのご心配の声が多く寄せられます。市が「敬老優待乗車制度検討懇話会」を設置し、制度の存続方法について検討を始めたことが報道され、敬老パスが無くなるとの声になったのです。懇話会の報告書が10月に提出され、これから議会での議論をあわせ、検討が進められていくことになります。

報告書の要旨

◆制度の問題点

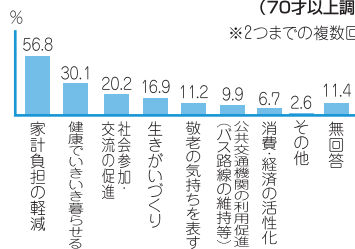
○高齢化の進行により、37年度には交付枚数がピークに達し、17年度の約1.5倍になると推計される。 ○市から交通事業者に支払われる額が充分ではないため事業者の負担が大きい。

◆今後のあり方について

○37年度まで制度の維持・継続が可能な仕組みが必要。 ○「対象年令」「時間」などへの制限は、市民アンケートで反対が多い。何らかの「利用者負担の導入」を図る方向の見直しを考えざるを得ない。①乗車時に一定額を負担 ②年1回交付時に所得に応じて負担 の2つの方式が考えられるが、①の方が収入が安定しやすい。ただし、所得の少ない高齢者に配慮する必要がある。

市民アンケート：敬老パスが役立っていると思うことから（70才以上調査）

※2つまでの複数回答



高齢者の健康な生活に役立っている今の制度が維持されるため検討は必要です。しかし高齢者に対する負担がふえており、そのうえ新たな負担を求めることには慎重でなければならないという認識で、今後も経緯をチェックしていきたいと思います。

平井まち子プロフィール

□1976年神戸市長田区生まれ(31歳) □池田小、西代中、長田高校、神戸大学(文学部史学科)卒業 □神戸電子専門学校を修了、広告代理店に勤務し、タウン誌の制作などに携る □2005年10月の神戸市会補欠選挙にて10,436票をいただき初当選。 □2007年市会議員選挙で5,413票をいただくも10票差で惜しくも次点。女性の目線と若い力の活きる社会を目指して活動中!

現在 ○長田神社氏子会参与 ○神戸あじさいライオンズクラブ会員
○中小企業家同友会会員 ○池田自治会相談役 など

